

令和7年度 第2回部活動の在り方研究及び地域移行（展開）に関する有識者会議（議事概要）

令和8年3月4日（水） 午後3時00分～4時30分

大阪市役所 5階 特別会議室

1 開会

- ・飽田首席より挨拶の後、配付資料を確認。
- ・【資料1】により出席者を紹介し、【資料2】に基づいて間野委員を座長に選出する。

出席者

対面参加：間野委員 相原委員 古川委員 西田委員 北川校長 辰巳校長 糸山校長

リモート参加：松永委員 岡崎委員 土屋委員 巽委員

オブザーバー

リモート参加：大谷課長（東淀川区） 清原課長（都島区）

川楠課長（西区） 江原課長（東住吉区）

事務局

対面参加：杉本部長 飽田首席

リモート参加：岩槻課長（大阪市経済戦略局）

2 議事

（1）【資料3】本市の現状、今年度の取り組みについて、事務局が説明。

（間野座長）

- ・実際に活動に参加されたうえで、何か感想とか印象とか、追加の情報はるか。

（巽委員）

- ・国が提示している課題として、障がいのある生徒への対応というものもあげているが、大阪市は当初から「誰一人取り残さない」ということを掲げている。障がい者、健常者も活動できる地域のクラブが一つぐらいあってもいいと思う。
- ・東淀川の事例紹介で、レベル別の水泳とあったが、理想はそういった個々のレベルに応じて寄り添うのがいい。「みんなの水泳」ということで、本当に重度の障がいのある方から水泳部の方まで一緒に活動しているので、なかなか個々のレベルに応じてということは難しい。しかし、やはりその中でみんなが一つとなって、お互いにいい刺激を与えながらできている活動は、今後でもできるだけ継続していきたい。
- ・いろんなアンケートで高評価だったと思うが「みんなの水泳」も含めて持続可能な活動にしていけないといけない。参加者からの費用、運営面での課題があれば教えていただきたい。

（飽田首席）

- ・参加者の受益者負担ですが、モデル事業への参加につきましては、無償で実施している。

- ・国においては、今後、地域展開・地域クラブ化をするにあたって、参加者による受益者負担、それに対しての補助という形で今後進めていく流れである。
- ・我々も今後、モデル事業による検証を進めるにあたって、受益者負担をどれほどのスケールで実施できるのか、大阪市として国からの補助等を含めて、どのようなシミュレーションで実施できるのかということに合わせて検証していく必要があると考えている。
- ・どのように持続可能な活動にしていくのかという点については、他都市等の状況も伺いながら、さらなる検証が必要であると認識している。

(間野座長)

- ・実際、本年度のモデル事業は非常に順調だと思う。本年度のモデル事業の感想、あるいは、来年度拠点追加、対象校の拡充それぞれについて何かご意見はあるか。

(糸山校長)

- ・まず、教員の負担軽減に関して。非常に部活動指導員のニーズが高く、部活動指導員にお任せしたいという教員もいるが、一方でまだまだやりたい教員もいる。
- ・学校によっては、やりたくないのであれば指導をしなくてもいいと宣言されているところもあるので、今後も部活指導員は非常にニーズが高いと思う。
- ・西区拠点で中之島中学校の参加率が非常に高いということも含め、今後の地域展開に向けたモデルケースになっていくと思う。
- ・その中には、これまでも大阪市が取り組んできた、誰もが参加できて楽しめるような多様な機会の確保に期待したい。
- ・ポッチャの実施もあったが、他にどんなものがあるかについても探してほしい。

(間野座長)

- ・中体連として、地域連携の推進、運動部活動の合同部活動や拠点校方式について、また、モデル事業についてどのようにお考えですか。

(北川校長)

- ・地域モデル事業という観点では、一つの方向性という意味で、かなり有意義なものであった。
- ・一方で、学校部活動をどう継続していけばいいのかということ、大阪市の教員はたくさん考えている。そういう意味で、合同部活動・拠点校方式による部活動に関しても、年々増えてきている状況。
- ・今年度の合同部活動については33チーム、延べ88校が参加。拠点校での部活動に関しましても11校。もうすでに来年度に向けての話も出てきている。
- ・複数校合同チーム・拠点校方式、どちらも増えそうな状況。
- ・これはやはり学校という単位をできる限り崩さず、学校の形の中でどう模索したらいいのか、大阪市の教職員が前向きに捉えながらやっているからであると考えている。

(間野座長)

- ・練習すれば必ず試合をしたい、できれば公式試合をしたい。そのあたりの参加方式についても課題だと思う。
- ・モデル事業でも文化・芸術種目を増やしているが、中文連として何かお感じになったこと、今後の期待等がありますか。

(辰巳校長)

- ・今年度の文化芸術 15 種目を見させていただき、かなりバラエティーにとんだものが増え、いいなと思う。特に中文連の部門にはないような、e スポーツやプログラミングは中々広がらないので、このあたりができてるのはすごいと思う。
- ・中文連としては、合計 16 部門の文化部がある。その中で活動している人たちは、自分たちの学校単位での部活をどう維持していくかに苦慮しており、拠点校方式や部活動指導員の充実をみなさん期待している。
- ・一方、意見をいただいた中で、家庭科手芸の部門で全国の作品展に出すために、ウェディングドレスや浴衣などを作って出したいが、そこまで学校の教員に技術があるかというと、みんながみんなそうではない。今の部活動指導員の中にそういった技術を持っている方がいないので、地域のボランティアさんとつながるなど工夫している。
- ・書道でも、半紙に墨で書くだけでなく、篆刻をやっているところもある。毎年、中文連の書道部門では、年に 1 回篆刻の先生や書道の先生を、自分の繋がりで探してくださっている。そこに地域や地域移行モデル事業の書道とが結びつくような仕組みがあれば、少し教員の負担も減ると思う。
- ・今は、個人的なパイプだけでつなげていくような状況なので、そこを中文連でサポートできればと感じている。
- ・やはり学校単位にこだわる部分もあり、そこに関わるのはお金。例えば吹奏楽。やはり前回に申しあげたとおり、学校持ちの楽器をみんなで使っていくので、修理代や維持費、もちろん楽器自体もすごく高い。楽器等を複数の中学校が集まって使った時に、費用はどこが負担するのか。演奏会のホールを借りるのに、そこのお金はどこが負担していくのか。なかなか住み分けが難しい。
- ・あと前回も言いましたが、コンクールは学校単位ごとのケースが多く、複数校の合同が認められるかは主催者によって違う。なかなか難しい部分がある。
- ・ただ、大阪市ではないが、周辺の都市では拠点校方式でコンクールに出ているところもある。1 つの中学校に吹奏楽をしたい生徒が集まって参加するということも実現していると聞いているので、我々もますますの工夫をしながら学校のサポートができればと考えている。

(間野座長)

- ・日々活動している種目を、どうやって中学生たちの思い出にしてもらうか。発表の場から逆算して、そのためにどのように日常を工夫するか。そこをうまくつなげていくようなこともこれからの課題かなというふうに感じた。

(2)【資料3】ガイドラインの策定を受けて、事務局から説明

(間野座長)

- ・大阪体育大学で独自の指導者研修をなさっていますけれども、指導者の資質向上に向けて、何かご意見があればお願いしたい。

(土屋委員)

- ・いつも大阪市様の学生向け研修会を古川先生とタッグを組んで、一緒にやらせていただいている。本当に丁寧に研修会の機会を設けていただいております。
- ・本学の方でも研修会をするが、こちらとしては伝えるべきことは伝えているが、その後、指導者が学び続けるときにどうやって応援していくかが今課題になっている。
- ・例えば、研修を受けた後に定期的に振り返りのレポートを書くことや、何か困ったことがあった際に相談できるような場を作れないかということを今、学内で検討中。
- ・大阪市様の方で、部活動指導員が気軽に相談できるような、指導者仲間のサロンみたいなことができたらいいなと考えている。
- ・大阪市様はこういうところに非常に先進的な取り組みで、他府県の市町村からも注目されているので、ただ伝えるだけの研修会ではなく、伝えた後学び続けられることを応援するような、指導しながら悩みを相談できるようなことができたらいいと思う。
- ・よく不適切指導通報の窓口があるが、困っている指導者の相談窓口がないので、それができればいいと思う。

(間野座長)

- ・確かに、指導法に悩んでいる指導員もいらっしゃると思うので、お互いに情報交換したり、励まし合ったりできる仕組みができるといいと思う。
- ・ガイドラインに対する大阪市の対応について何かご意見があればお願いしたい。

(古川委員)

- ・気になっている点が、実施主体の整備ということ。もちろん中間支援組織の形で、今回はコナミさんと、スポーツデータバンクさんに入っているが、今後、民間団体・民間企業以外にも、新たな非営利法人の立ち上げ等、そこが中間支援となっていく可能性はあり得るのかというところが気になる点。
- ・あとは今後の政策を実施していく観点から、現状、保健体育グループの皆さんが限られたリソースの中で、特に部活動指導員の割り当てなど本当に大変な作業を他の業務がある中でやられている。
- ・今後、大阪市として実施していくにあたって、部活動の地域連携の段階ではこの形でもいいのかもしれないが、もう一個レイヤーをあげて、今後の地域クラブ、地域展開を見据えたときに、どこの部署でこれを担っていくかということは、かなり大事なポイントだと考えている。

- ・例えば、先進事例としてよくあがる掛川市さんとか柏市さんとかでは、政策を担うような部署が担当しているケースが見られる。そのあたりは、この場での議論ではないのかもしれないが、今後の事業の引継ぎ等を踏まえて、大事な検討ポイントになってくるかと思う。

(3)【資料3】来年度に向けて、事務局から説明

(間野座長)

- ・では来年度に向けて、委員の皆さんからご意見を頂戴していきたい。

(相原委員)

- ・数字を見ても着実に進んでいることはすごいと思う。あと実施の多さもそうですし、競技の展開、レポートリーも増えていることもすごい。ここにいる皆さまの実績だと思う。
- ・この形のままやっていって、課題が洗い出せれば、先の地域連携、地域展開が、どういう形がいいのか、大阪モデルとして何か独自性や、全国の課題に当てはめていきやすくなるなと思う。
- ・特に中之島中学校はすごく注目している。大阪市でもモデル地区というか、新しい形で始まっているので、教育現場としてまた違う形のものが見えてくるのではと思う。

(間野座長)

- ・もう全国に正解が一つという時代ではないので、大阪市でベストな選択ができればいい。それを見て真似てできるところがあればやればいいと考えるので、どんどん進んでいただければと思う。

(岡崎委員)

- ・今ご指摘あったとおり、着実に進んでいるなという印象で聞かせていただいた。今後の課題のところでもまとめていただいている、学校部活動の取り組み「地域連携」と、休日の新たな地域クラブへの検証「地域展開」と分けていますけれども、最終的には地域連携と地域展開というのが一緒になってくるのかなと思う。都市部で課題としてあげられているような部活動、特に学校を中心とした部活動を継続する方向の中での地域クラブ展開というのが、どういうふうに位置づけられてくるのかなというのが一つ課題と思う。
- ・あとは、今年度の成果のところでご説明があった、専用アプリの内容が少し気になった。特に国の提言に対する回答のところ、ICT活用というのが大きな課題の一つになっているので、具体的にどのようなツールをどんなところで活用していくかということも併せて検討を進めていってほしい。SAKURA クラブの内容も聞くことができればと思う。

(間野座長)

- ・今の子どもたちは生まれた時からスマホを持っている世代。我々よりもはるかに詳しいので、どのように活用していくかということは、これも大きな課題だと思う。

- ・スポーツ協会の取り組みの中で、今までの活動のモデル事業の報告を受けて、活動場所とか実施種目等、スポーツ協会として何かございますでしょうか。

(西田委員)

- ・スポーツ協会として、学校現場以外の、例えば指定管理施設などへの優先利用という形は、難しい状態で、競技団体さんが着々と会場を確保しながら、いろいろなところで活動されている。
- ・例えば、指定管理現場でこういった形が本当にできるようになれば、先生への負担の軽減になると思う。
- ・今回、本当に大阪市さんの特徴で、地域展開をされた後でも、部活動に携わりたい先生方が4割以上いるというところは、本当に大阪市のすごい強みではある。そこと民間さんとがうまく連携することによって、大阪モデルが本当にできればいいと思う。

(間野座長)

- ・ロードマップについて、こんな展開でもっと早めた方がいいとか、十分だとか、何かもしご意見があればお聞かせください。

(糸山校長)

- ・やはり部活動指導員の配置というのは、教員にとって大きく、指導できる人材が来てくれることはありがたい。本当に感謝している。今後のロードマップでも部活動指導員のますますの配置をめざしていくということで、本当にありがたいと思う。
- ・あとは、どのようにして部活動指導員と学校の現場の教員を、土日も含めた地域の指導員として移行できるのか。
- ・中之島中学校を中心に多様な体験、そして地域を拡大していくことについては、本校も地域拡大していただけると、参加できることが増えていくので、ありがたいと思っている。
- ・来年度もそういう形で参加させていただきながら、また検討していきたいというふうに思う。

(間野座長)

- ・中体連、中文連にお伺いしたいのですが、中体連であればやはり競技会、公式戦、中文連でも公式な発表の場、コンクール、コンテスト、そこに向けて今後のところがあまり強調されていない。やはり、競技会の運営がなかなか外部指導者でお願いできないところもあり、教員にも役割が残ると思うが、このあたりの見通しやどんな一歩を踏んでいけばいいか、それぞれご意見いただけますか。

(北川校長)

- ・直近の大きな問題で、全国大会、近畿大会がある。もし、各市町村での大会が、地域クラブのみになった場合、大会運営を担う人材は果たして誰がするのか。
- ・陸上競技の大会を行う場合、審判が必要となる。大阪陸協が多少なりとも手伝ってくださり、

審判の補助をしていただけるが、前段の様々な事務処理には、各学校の顧問が中体連の会議に平日に集まっている。それを1ヶ月、2ヶ月、場合によってはもっと前からやっている。今年は近畿大会もある。

- ・そういったものを積み上げてやっている。それを平日、地域移行の方々がどこまで携われるのかというと、大会運営という観点から見ると、非常に厳しい。
- ・本当に大会運営一つとっても地域移行に関しては、非常に負担感が多い。

(間野座長)

- ・指導員を巻き込むのはなかなか難しいと思う。他の国を見ると、本当は競技団体がやるべき。
- ・バスケットボールの中学生年代の地域大会。これを日本の中央競技団体は今までやってこなかった。そちらの準備がまだできていないので、大阪市の場合は大阪の競技団体をうまく巻き込んでいくとか、そういったことが必要かもしれない。一方で文化芸術はスポーツの競技団体みたいなものが明確にあるわけではないので、どのようにしていったらよいのか。

(辰巳校長)

- ・文化系もコンクールやロボコンなどいろいろな大会はある。それぞれ主催者がいて、そこに中学校の文化部が参加する形を取っている。大会等が用意をされている部門については、我々教員が運営面で直接汗をかくということはない。
- ・大阪市では、文化部の大小様々な部門があるが、秋に一齐に集まり、総合文化祭を行っている。
- ・平日に教員と担当の校長とで、それこそ前年の総合文化祭が終わって一ヶ月後くらいから、次年度に向けて会議等を積み重ねてやっている。
- ・そこに部活動指導員が果たして入ってくるのか。やはり生徒に対しての責任の大きさや、いろいろな手続き、お金を触ることをどこまでやっていただけるのか、非常に難しいと思っている。
- ・ただ、子どもたちが一堂に会して、一齐に発表できる場は、これからもずっと継続していきたいと思っているので、教員の力をどこかに分散していくのは難しいと思っている。
- ・それぞれの主催者によって、合同で参加してもいいなどルールが変わってきているものもある。そこは、部活動指導員が連れて行き、発表して連れて帰るようなことが普通に成り立つと思う。運営に関しても、主催者側が行っているのので、特に問題はないが、そうでないものは中々ハードルが高いと思われる。

(間野座長)

- ・大阪市の今後に向けて、何かお気づきの点があれば、ご教示いただきたい。

(松永委員)

- ・大阪市さん、本当に長きに渡って、地道に積み上げて来られている点ということに対しては、本当に敬意を表します。この委員のメンバーでもあります先生方のご尽力もあって、研修等で

部活動の指導員を着実に確保されて、数を増やされている点についても、非常に他都市に比べて参考になる取組をされていると思っている。

- ・休日から、今後平日に行く時に、またもう一段階ハードルが上がってくるところについて、中長期でロードマップを描いていく必要がある。
- ・まず休日からというのを重々承知しているが、京都市では、平日、休日同時にかなりハードルが高く難しい状況ではあるが、吹奏楽部の状況、楽器、学校行事、地域の行事を踏まえて推進しているというところ。
- ・休日をまず固め、平日についてどうされていくのか、今後いろいろと情報交換をさせていただきたい。
- ・他都市の過疎地域でもやっている、指導ではなくサポートをするスタッフ、そちらの人材確保も必要である。指導者の方がなかなか来られないという状況はどこも一緒だと思う。そのつなぎの時間や学校の先生がおられない時間で、保護者等で指導はできないが見守り・サポートしたださるスタッフを活用している。指導員ではないが最低限の研修を受け、子どもたちの活動をサポートしたださる。それもボランティアではなくて、安価ではあるが謝礼を出して、そのような人材の確保について、京都市でもやっていけないか今準備しているところ。
- ・そのあたりも踏まえ、人材の確保というところがどこも課題だと思いますので、大阪市さんも何らかの形でご検討いただきたい。

(間野座長)

- ・つなぎの補佐が1人、2人でもいたらとても助かると思う。
- ・例えば、そのサポートスタッフがいたときの事故の責任の問題とか、詳しいことを大阪市さんの方にお伝えいただければと思う。

(松永委員)

- ・我々もまだ検討中ですので、また勉強させてほしい。

(巽委員)

- ・休日の完全移行をめざすということですが、保護者の理解、生徒の理解、そして学校側への周知も、だいたい進んできたのではないかと思う。
- ・ここまででなにか大きな、大阪市に対してクレームや阻止するような動きはないのかなと個人的には思っている。
- ・ただ、どうしても大会とか試合があるのは休日になることが多い。その際はやはり引率や準備が必要になってくる。
- ・休日の部活動はなくなったとしても、その競技大会を今後どのようにしていくかは、各競技団体、協会と一度、話し合う機会を設けて、方向性を定めないといけないかと思う。全中を開催しないと決めた競技団体もあるが、その辺は、大阪市だけでは完結しない。もう少し大きなところを、国も早く固めていってほしいと思う。
- ・あとは、個人的に神戸市の部活動の完全委託がうまく進んでいるのか、またこんな課題がある

というのがあれば、教えていただきたい。

(飽田首席)

- ・この間、政令指定都市間でどういう取り組みをしているのかという情報交換を行った。現段階で我々が聞いている範囲では、一次募集、二次募集まで行かれて、最後の三次募集でまだ埋まっていないような学校や種目について応募をかけているというふうな段階だと聞いている。
- ・その中で、大阪と違う部分として山間部など土地の利便性がある。移動手段が非常にネックになっている部分がある。人口的にも多く、平地にあって行き来しやすい都市部はいいが、山間部で少し交通面が悪くて、他の場所に行き来がしにくいところは参加が難しい。
- ・別段でいうと神戸市は総合型地域スポーツクラブの団体数が多い。そういった土壌もある中で、保護者や総合型地域スポーツクラブへの移行も踏まえて、スタートを切られた。さまざまな課題がある中取り組んでおられると聞いている。
- ・ただ、この情報も年末年始の話だったので、事務局等が活動され補充されている種目もあると認識している。

(間野座長)

- ・大阪市は、移動の問題が少ないのがすごく特徴。

(土屋委員)

- ・今はセーフスポーツが大事なキーワードになっている。資質能力の向上だけでなく、安全安心のところで、例えば施設の安全安心も含めて。単に地域に移行・展開するとか、新しい部活のシステムを作るだけではない。間野先生がおっしゃっていた子どもたちの放課後改革というのは、非常にその通りだなというふうに思う。そういう点では、本当に安全安心が一番大事なことになるんだと思う。
- ・今後も、指導者の資質能力のことや、施設の安全安心といったものを研究してやっていくのがいいかなと感じている。

3 閉会